友だちといっしょにすすんで取り組む子

河　田　祐　子

はじめに

R子は、公立小より小学部5年生に転入して以来、本校での生活が4年を経ようとしており、自分なりに見通しを持ちながら、学校生活を送っている。学級集団の中で、友だちと関わりたい、友だちの世話がしたいという気持ちは旺盛で、親しい友だちや先生には積極的に接することができる。しかし、素直に関わることが苦手で、接し方が乱暴になったり、命令口調になったりしがちである。また、慣れない場面では、恥ずかしさから緊張が増し吃音になりがちである。このようなR子が、様々な集団の中で友だちに気を配りながらなかよく活動を重ねる中で、少しずつ協調性や自信を持って取り組む態度を身につけつつある姿を述べてみたい。

1　プロフィール

(1) 生　育　歴

- 昭和54年11月30日生　14歳　中学部2年生　女子
- 環境性の精神発達遅滞
- 公立小（普通学級）より本校小学部5年生に転入　平成4年度本校中学部に入学、現在に至る
- 両親、弟、妹がおり、5人家族

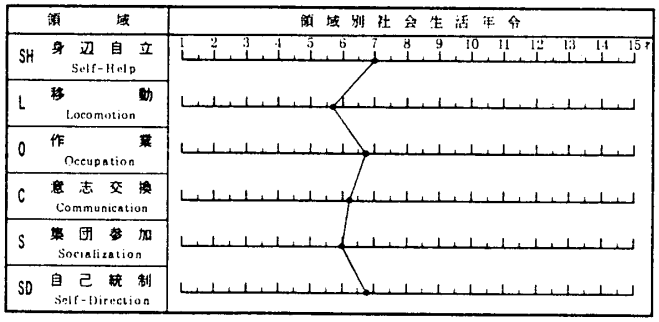
(2) 諸検査による実態

- **知能検査**　IQ 43（言語性47　動作性50）WISC－R
- **S－M社会能力検査**　SA 6：3

  右の図に示すように身辺自立、作業、自己統制の領域に比べ、移動、意志交換、集団参加の領域が低い。

- **コミュニケーション・サンプル**

  説明、情報提供、情報請求が多い。また、親しい友だちや先生によく話しかける。



S－M社会生活能力検査

(3) 行動・コミュニケーションの特性

- 自分なりの見通しを持って、物事に取り組むことができる。
- 友だちと関わりたい気持ちや遅れがちな友だちの世話をしたい気持ちは十分にあるが、恥ずかしさから接し方が乱暴になりがちである。
- 言語が不明瞭になりがちで、さらに緊張すると吃音になる。
- 第二次性徴期を迎えており、服装や髪型が気になったり異性への関心が見られたりするが、やや清潔感に欠ける。

2　取り組みの構想

(1)　指導仮説

以上の実態をもとに、R子が友だちと素直に関わり、よりよい人間関係を築いていけるよう、次のような仮説を設定した。

電話で会話を楽しむR子

〈個人目標〉　友だちといっしょにすすんで取り組む子

〈つけたい力〉　・協調性　・素直に表現する力　・リーダー性
・自信を持って取り組む態度　・清潔感

〈めざすコミュニケーション像〉　素直に自分の思いを伝える子

友だちと関わりたい、友だちの世話をしたいというR子の意欲を大切にしながら、様々な集団で十分に自分の思いを出し活動させる。そして、相手の話をよく聞き取り、できるだけ正しい発音や言葉遣いで接するようにさせる。さらに、中学生らしい言動やマナーを身につけ、素直に友だちと接する態度を身につけさせていく。このことは、友だちとの関係をよりよいものにし、自信を持ってより積極的に活動するR子の姿へつながると考える。

(2)　指導方針

①　集団の中で友だちに気を配りながらなかよく活動させ、素直に相手と関わることの楽しさを味わわせる。

②　自信を失わないように配慮しながら、間違った発音や言葉遣いを直させる。

③　中学生であることの自覚や責任を意識させ、中学生らしい言動やマナーを身につけさせる。

3　指導の実際

(1)　生活単元学習

生活単元学習において様々な集団の中で活動する内に、やさしく友だちと関わったり、自分の考えを発表したり、責任を持たされた場面でリーダー性を発揮したりする面が見られた。次に「野外炊飯」「ミニキャンプ」「大山林間学校」の単元におけるR子の取り組みの様子について取り上げてみたい。

①　「野外炊飯」での取り組み

題　材	取り組みの様子	要　因
・台ふき作り	・Z男がなかなか糸を針に通せないのが気になり、「自分でしてみんさい」「ねぶったらいいけ」と何度も話しかける。最後には、自分が通してやる。	・友だちのことが気になり世話をしたいという気持ち
・炊飯練習	・野菜を切りながら、「B男君、これ切りんさい。ちゃんと切りんさいよ」と、やや命令口調でいう。「やさしく」と先生に声かけされ、照れながら言い直す。	・自分はリーダーだという気持ち
・食器作り	・自分の皿がほぼできた時、みんなの作っている皿を数え、足りないことに気づき「先生、14しかありません」と報告する。	・自分なりの見通し

これは学級単位で取り組んだ単元だったが、炊飯練習やまき作り等小グループで活動する時、R子はリーダーとなり喜んで友だちの世話や声かけをしていた。しかし、はりきりすぎて命令口調になったり乱暴な接し方になることも多かった。その都度声かけすると、恥ずかしそうに言い直した。

② 「ミニキャンプ」での取り組み

題　　材	取り組みの様子	要　　因
・日程の話し合い	・出し物練習が必要なことに気づき、しばらくもじもじしてから思いきって手を挙げ発表した。	・みんなの前で発表する恥ずかしさ
・テントはり	・友だちとなかよく活動したが、その場を離れがちなL男が気になり作業から離れる場面も見られた。	・友だちを活動に加わらせたい気持ち
・ミニキャンプ当日	・夕食を作る時、食事係としてよく活躍した。「○○君は○○をしてください」と声をはりあげて分担を考え伝えたり、活動が行き詰まると、自分なりに方法を考えてみんなに指示し進めようとしていた。	・食事係としての責任感

「ミニキャンプ」では、学部を解いた縦割りグループで活動した。慣れるに従って、他学年の友だちともよく話し、下級生のL男の世話もよくするようになった。しかし、L男のことが気になるあまり、自分の活動が止まりがちになることもあった。また、新しいグループの中でも、少しずつ発表ができるようになり、食事係として精いっぱいリーダーシップを取ることができた。

③ 「大山林間学校」での取り組み

題　　材	取り組みの様子	要　　因
・班活動の計画	・話を聞き自分なりに意見を持つが、手をあげずにまずつぶやき、先生の顔を見てうなずいてもらってから発表していた。	・恥ずかしさと自信のなさ
・調　　理	・「ミニキャンプ」に続いて食事係を希望し、分担表を自分で書き、それを見ながら友だちに一生懸命指示を出し進めていった。	・自分の希望の係になった喜びと責任感
・大山林間学校当日	・L男に気を配り、遅れがちになるとすぐに迎えに行っていた。見学する時、いつも話しやすい友だちを誘っていた。	・仲間意識

友だちの前での発表や学部を代表して初めて会った人に挨拶をするような場面では、緊張しがちではあるが、思い切って言えることが多くなってきた。また、遅れがちな友だちに対してよく気がつき援助していた。

友だちを気づかいながら歩くR子

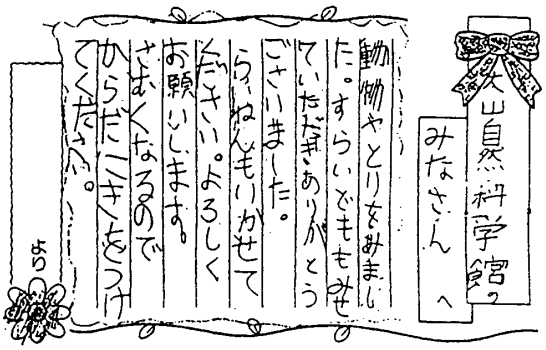
(2) 課題別学習

R子は89頁で記したA2グループの6名と一緒に課題別学習に取り組んでいる。基礎学力の実態は、簡単な漢字を使って文が書けるが、発音の誤りが多いのと同じく書きことばにも誤りがかなり見られる（どうして→ろうして、しばふ→しばく等）。また、計算力は、繰り上がり繰り下がりがある計算になると具体物が必要である。

1学期から、小2程度の漢字の習得、覚えた漢字を作文の中で使って

いくこと、友だちや先生の発表を聞き取り意見や感想の交換をすること等の学習を重ねてきた。また、繰り上がりの計算、3000円までのお金の支払い、時計、重さ、量等の基礎的な学習にも取り組んできた。

成果は小さなものではあるが、次のような場面が挙げられる。



お　礼　状

○右に示すお礼状のように、敬語を自分で文の中で使いながら、自分なりの気持ちを表現して書くことができた。

○１位数どうしの繰り上がりの計算が、指を使いながら自分で計算し言えることが多くなった。

○94頁に述べた「健康度の計算」の場面で、昨年度は計算することができなかったが、今年度自分で工夫して10の合成をしながら答を出せるようになった。

○分針を読むことができなかったが、５分単位の読み方が少しずつできるようになった。

今後も、学習したことを生活場面で生かし使うよう心がけながら定着させていきたい。

(3) 日常生活の指導

日常生活の指導では、特に友だちとの接し方について指導に心がけた。Ｒ子は、友だちと関わりたい気持ちは十分にあるので、休憩時にも他学年の友だちにまで声をかけて教室でトランプをしたり、いつでも遅れがちな友だちを見つけるとさっと援助ができたりする面を持っている。しかし、素直な話し方ができず、きつい口調で誘ったり教えたりしがちなので、やさしい気持ちが理解されず友だちとの関係もぎくしゃくしがちであった。まだ乱暴な面も見られるが、自分でも直そうという気持ちを持っており、先生に指導されると照れながら言い直している。本学級は女子はＲ子とＭ子の２名だけであるが、以前より仲がとてもよくなり楽しく話せるようになってきている。

また、Ｒ子は、家庭の環境にも原因し、やや清潔感に欠ける面がる。服装や髪型に関心を持ち始めているので、中学生らしいマナーについて機会を把えては指導し、家庭とも連携を取りながら指導しており、少しずつ清潔感も見られるようになってきている。

４　考察と今後の課題

11月の「学習発表会」で、Ｒ子は進んで動物の役になり、最も苦手とする多勢の前での演技を隣りの生徒の動きも気づかいながら堂々と演じることができた。昨年度より増えた台詞もはっきりと大きな声で言うことができ、成長の姿を見る思いがした。また、このように、その時々の自分のめあてに向けて努力しやり遂げた成就感を積み上げることにより、さらに成長を期すことができるのではと考える。そして、友だちに対し積極的に関わりを求めていく場面が増えつつあり、友だちと関わることの楽しさを存分に味わうことで、素直に接する態度を定着させていきたい。Ｒ子が友だちとの関係をよりよいものにし、より積極的に活動できることを願っている。